

中 学 校

平成 2 6 年度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目次

I	研究主題設定の理由	1
	研究構想図	
II	研究の仮説	3
III	仮説を検証するための視点	3
	1 R P D C Aサイクルに基づいた学級活動を行う	
	2 話し合い活動を工夫する	
	3 生徒による評価方法を工夫する	
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
	1 調査研究	
	2 実践研究	
VI	効果の検証と提言	22
VII	研究の成果と今後の課題	24

研究主題 学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を

把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫

～自他を尊重する話し合い活動を通して～

## I 研究主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、「情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況も見られる」との指摘があった。

特別活動が、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、学習指導要領において、特別活動の目標に「人間関係」の文言が加えられた。このことにより、集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実に主体的に関わる教育活動としての意義が明確になった。（中学校学習指導要領解説 特別活動編）

特別活動の目標である「よりよい生活や人間関係」を築くためには、生徒一人一人が集団の一員としての自覚と責任に基づき、学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、学級や学校生活に関わる諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成することが必要である。また、生徒は学校生活において様々な集団に所属し、多様な人間関係を築いている。特に学級集団は、生徒の学校生活の基盤となる基礎的な生活単位である。学級集団を基盤として行われる学級活動は、学校生活の全般に関わる内容を扱う、特別活動の中心的な役割を果たすものである。

これらのことから、本研究においては、学級活動の「話し合い活動」に視点を当て、自他を尊重する話し合い活動の充実を図る。自他を尊重し、互いに認め合う「話し合い活動」の充実を図ることにより、生徒一人一人が課題を自分のこととして捉え、自分の考えをもち、表現できるようにする。さらに、互いの考えのよさを認め合うことで、生徒一人一人の自信につなげるようにする。このように協力して共に生きる中で、よりよい人間関係を築く力、当面する課題に主体的に関わり、よりよい生活づくりに参画しようとする態度を育成することができると考えた。

以上の内容から、今年度教育研究員中学校特別活動部会では、研究主題を「学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫～自他を尊重する話し合い活動を通して～」と設定した。

## 研究構想図

### 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。



### 生徒の実態

- ・自治的能力、自主的に活動する力が充分でない。
- ・集団の中での表現力が充分でない。
- ・他者への評価が高い。
- ・自己肯定感が低く、自分に自信のない生徒が多い。
- ・集団の一員としての自覚が低い。
- ・人間関係に対する不安感が強い。
- ・指示をされた事柄には取り組む。
- ・規範意識が低下している。



### 身に付けさせたい力 目指す生徒像

- ・自他を尊重して、豊かな人間関係を築くことができる生徒
- ・主体的に課題を発見し、協力して解決に取り組む生徒



### 研究主題

学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫 ～自他を尊重する話し合い活動を通して～



### 研究仮説

生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話し合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題に関わる態度が身に付くだろう。

### 研究方法と内容

- (1) 基礎研究  
文献・資料による研究  
「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」  
評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校特別活動編）  
「自信 やる気 確かな自我を育てるために（基礎編 発展編）」  
「学級・学校文化を創る 特別活動（中学校編）」
- (2) 調査研究 アンケートによる生徒の実態把握とその分析
- (3) 実践研究 検証授業による実践、アンケートの実施、効果の検証

## II 研究の仮説

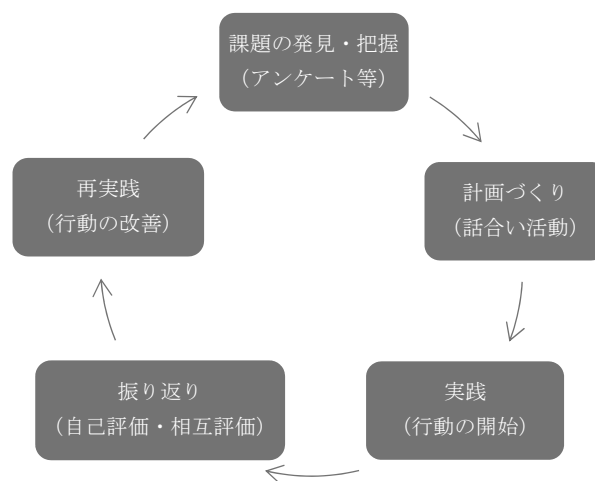
生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話し合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題に関わる態度が身に付くだろう。

## III 仮説を検証するための視点

### 1 RPDC Aサイクルに基づいた学級活動を行う

主体的に課題に関わる態度を育成するためには、課題を自己や集団の課題として認識することが第一段階（**Research**）である。アンケートや班長会、学級委員会を通して、課題の発見・把握をし、その後、課題解決のための計画づくり（**Plan**）をする。話し合い活動を通して、集団決定・自己決定をすることが、主体性の育成につながる。自分たち（自分）で決めたことを普段の生活の中で実践（**Do**）し、振り返り（**Check**）、再実践（**Action**）すること、また、この流れ（サイクル）を繰り返すことで、主体的に課題に関わる態度が身に付く。

RPDC Aに基づいた学級活動		具体的な生徒の活動
R	課題の発見・把握	アンケート等
P	課題解決のための計画づくり	話し合い活動
D	計画に基づいた実践	行動の開始
C	実践の振り返り	自己評価・相互評価
A	振り返りを生かした再実践	行動の改善



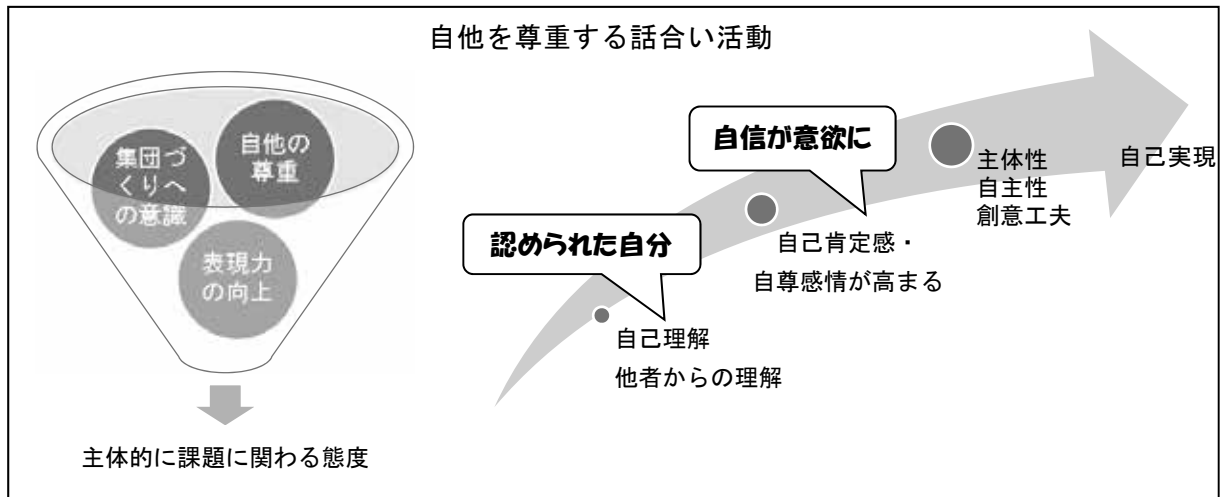
### 2 話し合い活動を工夫する

主体的に課題に関わる態度を育成するためには、①よりよい集団、よりよい人間関係を築いていこうとする意識（**集団づくりへの意識**）を高めること、②自分に自信をもち、他者を尊重し（**自他の尊重**）、その中で自分の役割と課題を認識し、行動すること、③自分の考えを表現する力を身に付け（**表現力の向上**）、他者と協力しながら課題に関わる大切である。この三つの要素を満たす活動が、話し合い活動であり、話し合い活動を工夫すること（ワールド・カフェ、構成的グループエンカウンター、ダイヤモンドランキング等）で、主体的に課題に関わる態度が身に付く。

#### ワールド・カフェとは

ワールド・カフェ（自由な雰囲気をつくり小グループの席替えをしながら話し合う手法）を用いて生徒が臆することなく意見を発表し合い、多様な価値の理解から望ましい人間関係の構築につなげます。ワールド・カフェでは、話し合いのグループ編成は4人～5人が妥当とされています。

「学級・学校文化を創る特別活動中学校編」 平成26年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター



### 3 生徒による評価方法を工夫する

主体的に課題に関わる態度を育成するためには、前述のようなR P D C Aサイクルに基づいた学級活動を行うこと、話し合い活動を工夫することが重要である。しかし、それらの活動を通して、生徒自身が自他を振り返り、日常生活につなげていくことが、本当の意味での“主体性の向上”であると考えられる。

## IV 研究の方法

### (1) 基礎研究 文献・資料による研究

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」  
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校特別活動編）」  
「自信 やる気 確かな自我を育てるために（基礎編 発展編）」  
「学級・学校文化を創る 特別活動（中学校編）」等から基礎研究を行った。

### (2) 調査研究

部員の所属校の生徒を対象に、「学級活動に関するアンケート調査」「自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター 平成22年）」を実施した。

### (3) 実践研究

学級活動の検証授業に取り組み、その成果を分析した。事前・事後にアンケートを実施し、生徒の変容を確認した。

## V 研究の内容

### 1 調査研究

本研究では、調査研究として「自分から積極的に学級活動に取り組んでいるか」、「学級のために、課題を見付け、解決しようとしているか」などの生徒の実態を把握するためにアンケートを実施した。検証授業を行った後に同じ内容のアンケートを実施し、生徒の変容を把握することとした。

### 2 学級活動に関するアンケート調査

本研究で実施するアンケートは二つである。一つは自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター 平成 22 年）である。このアンケートを通して、自分に自信をもち、考えや意見を他の生徒に表現することができているかどうか、実態を把握する。もう一つは、生徒が学級の課題を見付け、それを解決しようとする意識をもっているか、実態を把握するために作成したアンケート（表 1）である。本アンケート調査は研究員が所属する学校 4 校の生徒 896 名を対象に行った。

表 1 「学級活動に関するアンケート」

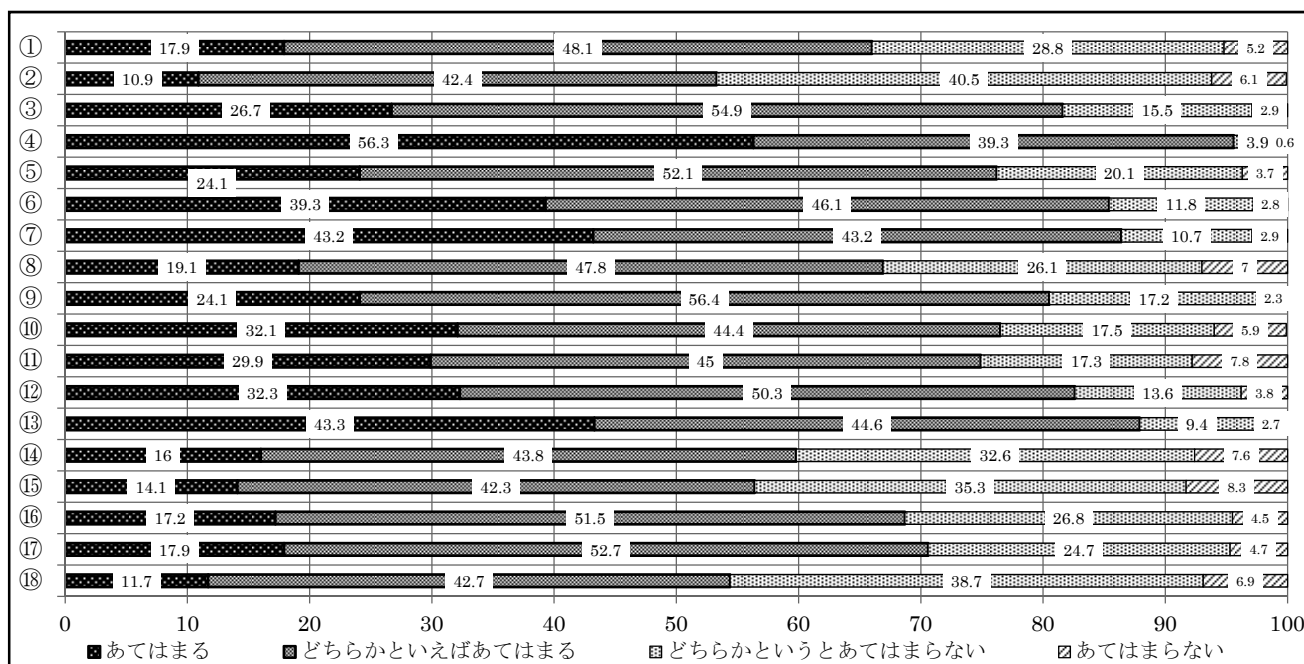
これは特別活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に○をつけてください。

		あては まる	どちらかとい うとあてはま る	どちらかとい うとあてはま らない	あては まらない
1	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
2	私は友達や学級のためになることは、自分で見付け実行している。	4	3	2	1
3	私は学級の友達と認め合い、助け合っている。	4	3	2	1
4	私は友達のよいところを認めている。	4	3	2	1
5	私は学級のよいところと課題を理解している。	4	3	2	1
6	自分のよいところを認めてくれる友達がいる。	4	3	2	1
7	自分のことを大切にしてくれる友達がいる。	4	3	2	1
8	学級は安心して自分の意見や考えを発表できる場所である。	4	3	2	1
9	学級は係活動・当番活動に積極的に取り組む集団である。	4	3	2	1
10	学級は居心地のよい場所である。	4	3	2	1
11	学校は居心地のよい場所である。	4	3	2	1
12	学級活動はよりよい人間関係を築く一つのきっかけになっている。	4	3	2	1
13	学校行事はよりよい人間関係を築く一つのきっかけになっている。	4	3	2	1
14	私は話し合い活動の中で自分の意見や考えを表現している。	4	3	2	1
15	私は話し合い活動に積極的に関わっている。	4	3	2	1
16	私は友達の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
17	私は友達と協力して課題解決に取り組んでいる。	4	3	2	1
18	私は話し合い活動の中で新たな課題を見付けようとしている。	4	3	2	1

( )年( )組( )番 名前( )

検証授業前の調査結果は、図 1 のとおりである。

図1 検証授業前の調査結果集計



第一に、人間関係に関わる項目④⑥⑦からは、周りの友達のことをよく理解し、良好な人間関係を築いていることが分かる。項目④「私は友達の良いところを認めている」において「4 あてはまる」又は「3 どちらかというにあてはまる」で回答した割合（以下、「肯定的な割合」という）が95%を超えていることから、生徒は周りの友達のことを高く評価していることが分かる。一方、項目②「私は友達や学級のためになることは、自分で見付け実行している」では、肯定的な回答が53.3%、半数近い生徒が否定的な回答をしており、自分自身のことについてはそれほど評価していない傾向にある。このアンケートとは別に、「自尊感情測定尺度（平成22年度東京都教職員研修センター）」も実施した。この結果からは「自己評価・自己受容」の項目が低い傾向にあることが分かった。これらのことから、学校生活において自分が集団に対してどれだけ働きかけができていけるかが分かるようにし、自分に自信がもてるような場面を設定する必要があると考える。

第二は、話し合い活動に関する意識についてである。話し合い活動に関わる、項目⑮「私は話し合い活動に積極的に関わっている」では、肯定的な回答が56%であった。約半数の生徒が、普段の話し合い活動では、あまり意見を出すことをせず、課題解決や課題を見付けようとする姿勢が充分ではないことが分かる。学級活動の時間を中心に、課題を見付け、解決するために話し合う指導の工夫が必要であると考えられる。

第三は、普段の学級活動の取組についてである。普段の学級活動の取組に関わる項目⑫⑬で、学級活動や学校行事が人間関係を築く一つのきっかけになっていると認識している生徒は80%以上いる。一方で、同じく学級活動での取組に関わる項目①②で否定的な回答をしている生徒の割合が高くなっている。このことから、学級活動に積極的・自発的に取り組む姿勢をさらに高めさせる必要があると考えられる。自主的に課題を見付け、それに取り組むことを通して、普段の学級の活動に積極的に取り組む態度を育むことが必要であると考えられる。

以上のことから、友達のことをよく理解し、評価しているが、自分に対する評価は低く、自信のなさが表れていると考える。その結果、話し合い活動でも積極的に関わることができず、学



級活動への取組にも改善の必要があることが生徒の実態として捉えることができる。自分に自信をもち、積極的に話し合い活動に参加し、課題に主体的に関わろうとする態度を育成することができるよう、指導を工夫する必要がある。

### 3 検証授業（１）〔実施日：平成26年10月2日〕

#### (1) 議題 「学校生活を充実させよう」（第3学年）

（内容項目：（１）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

#### (2) 議題設定の理由

中学校第3学年の2学期は、人間関係も落ち着き、学校生活はこれまでの経験から教員の助言が少なくなり個人や集団で考え判断していくことが多くなる。しかし、目前に迫る定期考査や、受験に対して落ち着かなくなる生徒が多くなる時期である。1学期の運動会、修学旅行などで培った力、身に付けた力を卒業までの生活につなげていくために、班や学級全体で話し合い活動を取り入れ、個人や学級の課題を行事ごとに明確にした。

個人やクラスの課題としては、「授業に集中できない人がいたのに注意できなかった。」「行事に対して、実行委員や班長任せにしてしまった。」などが挙げられた。これらを解決するためには、互いに思いやりをもち、いろいろな人と積極的に関わり合い課題解決に取り組む活動が不可欠である。

そこで、3年生として残りの中学校生活をより充実したものにし、学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成することを目的として議題を「学校生活を充実させよう」とした。

#### (3) 指導のねらい

○学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握し解決しようとする態度を育成する。

○互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育成する。

#### (4) 評価の視点と本実践における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち、卒業へ向けた学校生活に自主的・自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。	学級生活の向上や諸問題の解決する意義や、それに向けて学級で取り組むことの意義、解決法について理解している。

#### (5) 展開の過程

##### ア 事前指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
9月17日 (水)	学級活動	・アンケート調査を行う。	・生徒の身近な問題について考えさせる。また、普段の生活や、これからの生活についてよりよい姿を考えるようにする。	・話し合い活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。 [観察・評価カード]
9月30日 (火) 放課後	(班長会)	・アンケートを集計し、議題と目標を選定する。 ・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立てる。	・生徒の思いを聞きながら、本時の流れを検討し、活動の見通しをもてるようにする。	・話し合い活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。 [観察・評価カード]

イ 本時の指導と生徒の活動

(7) 議題「学校生活を充実させよう」

(イ) 本時のねらい

○合唱コンクールに向けた学級の取組に関心を持ち、互いの考えを生かし、練習の仕方やクラスとしての取組の合意形成を図る。

○卒業遠足に向けて関心を持ち、課題に対して建設的に解決しようとする。

○学級の一員として、互いのよさを認め合いながら、学級での所属感を高める。

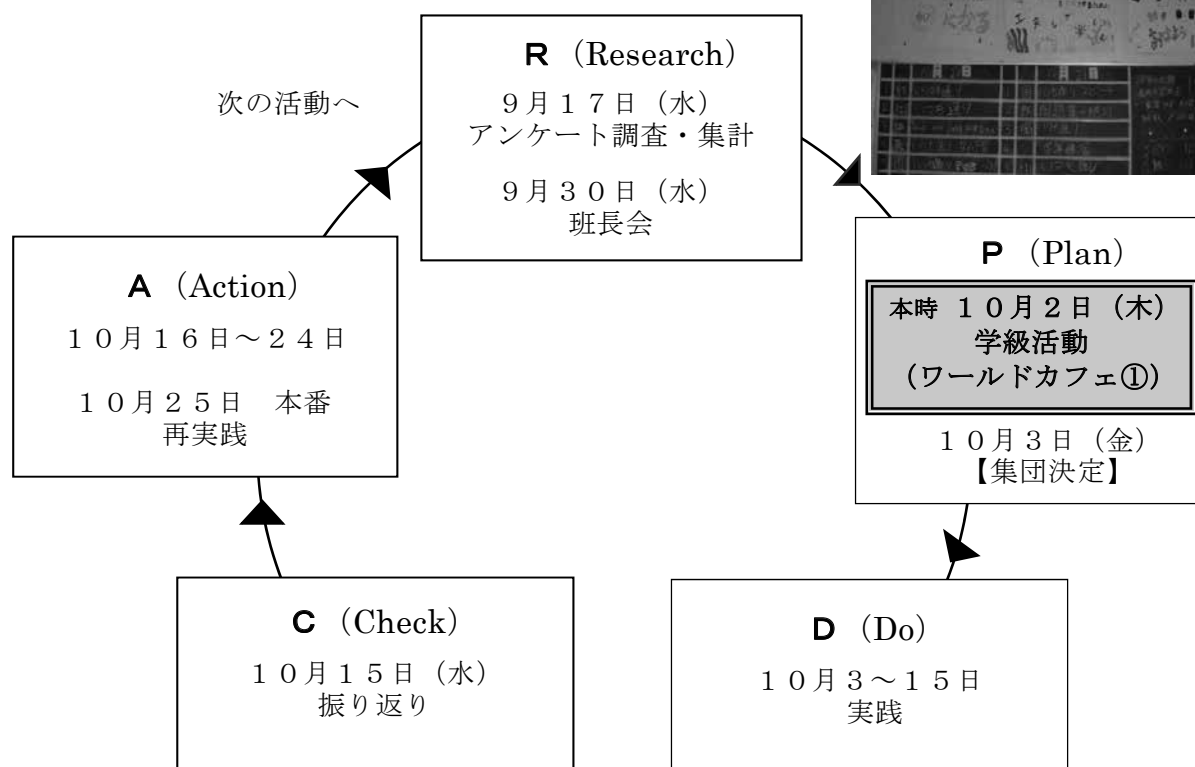
(ウ) 展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題の発表</li> <li>・提案理由の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長会で検討された経過を説明した上で、本時の内容を学級全体に説明する。</li> <li>・提案理由を細かく説明しながら、話し合い活動への積極的な参加と学級への所属感が深められるように助言する。</li> </ul>	
	<p>議題</p> <p>A・・・ 合唱コンクールを充実させるために</p> <p>B・・・ 卒業遠足を充実させるために</p> <p>C・・・ クラスの男女仲をもっとよくするために</p>		
活動の展開	<p>話し合い</p> <p>(1) 各テーマ7分間話し合いをし、次のカフェに移動する。</p> <p>(2) オーナーが、話し合われたことを発表する。</p> <p>(3) 元の位置に戻って、話し合いを共有し、内容を深める。</p> <p>(4) これからクラスとして行っていくことを集団決定し、発表する。</p>	<p>(1) ワークシートを配付する。</p> <p>(2) 話し合い活動の進め方の説明をする。(ワールド・カフェ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が出にくい場合は、周囲と考える時間を与えるよう助言する。</li> <li>・聞くときは、しっかりと聞くよう指示する。</li> </ul> <p>(3) 活動時間を伝える。</p>	<p>◎提案理由に沿って、互いのよさを生かし合いながらそれぞれのテーマを成功させるための具体策を考え、理由を示して意見を述べている。</p> <p>【観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>◎新たな課題を発見しようとしている。</p> <p>【観察】</p> <p>【ワークシート】</p>
活動のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの流れを方向付けた発言や班長(オーナー)の活動などを称賛するとともに、実践へ向けて活動意欲を高めることができるよう助言する。</li> </ul>	

ウ 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月3日 (金)	朝学活 帰り学活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日話し合った内容について振り返り活動を行う。</li> <li>・それぞれのテーマごとに一つに絞って集団決定をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、他者の意見を尊重しながら、学級に合った事柄を一つ決定できるようにする。決定したことを掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクール等の成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。</li> </ul> [観察・評価カード]
10月15日 (水)	学活 学級活動 (合唱コンクール前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り活動を行う。課題が解決されたか学級全体で確認する。未解決のものは修正し、解決に向けて話し合う。</li> <li>・アンケートを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートや、話合いの感想などを共有できるようにする。</li> <li>・成果と課題が具体的にになるように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクール等の成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。</li> </ul> [観察・評価カード]
10月29日 (水)	学活 学級活動 (合唱コンクール後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクールを終えて、振り返り活動を行う。</li> <li>・生徒の活躍について、具体例を示して称賛する。</li> <li>・課題が解決されたか学級全体で確認する。未解決のものは修正し、解決に向けて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクール等の成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。</li> </ul> [観察・評価カード]

エ 事前・本時・事後の活動の図式化 (RPDCAサイクル)



(6) 資料等

○10月2日(木) ワールド・カフェ①【学校生活の充実：三つのテーマについて話し合い】

<b>テーマ「学校生活を充実させるために」</b> 話し合い活動のためのワークシート		<b>第1回</b> 月 日
組 番 名前		
<b>進み方</b>	B → A → C	(Callout: 班長会でテーマごとの班構成を考え、進み方を事前に示した。)
<b>話し合いのテーマ</b>	(Callout: 班長会で決定されたテーマを事前に示すことで、生徒がテーマを書き写す時間を省いた。)	メモ
A	合唱コンクールを充実させるために	
B	卒業遠足を充実させるために	
C	クラスの男女仲をもっとよくするために	
<b>評価</b>	あなたはそれぞれのテーマごとに自分の意見や考えを表現することができましたか？ どちらかに○をしてください。	
A	はい	いいえ
B	はい	いいえ
C	はい	いいえ
<b>アンケート</b>	4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 ややあてはまらない 1 あてはまらない 以下の枠に、数字で記入してください。	
1	私は話し合い活動に積極的にかかわった。	
2	私は他者の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んだ。	
3	私は他者と協力して課題解決に取り組んだ。	
4	私は話し合い活動の中で新たな課題を見つけようとした。	
(Callout: ワークシートに、テーマごとの自己評価を入れることで、積極的に自己の考えを表現しようとする態度を育てた。)	新たな課題を見つけた人は、どんな課題ですか	
<b>話し合い活動を通しての感想</b>	(Blank space for comments)	

本時で使用したワークシート

### 本時の話し合い活動

- ワールドカフェ
- まとめ(集団決定)

### 本日の座席(テーブル)

### ワールドカフェ

- 与えられたテーマについて各テーブルで数人がまず議論する。
- 次にテーブルオーナー以外は他のテーブルへ移動し、そのオーナーから前の議論の概要を聞き議論を深める。
- これを何回か繰り返す。
- A,B,Cすべて回ったらオーナーがまとめの報告を全員にする。
- 初めの席に戻り、それぞれのテーブルごとに集団決定をする。
- 模造紙に書いたり、自由に発言をしながら、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やすやり方。

### テーマ「学校生活を充実させよう」

- A 合唱コンクールを充実させるために
- B 卒業遠足を充実させるために
- C クラスの男女仲をもっとよくするために

### 話し合いのルール

- 1 全員が発言する
- 2 相手の話をしっかり聞く
- 3 相手の話をバカにしたり、笑ったりしない
- 4 相手にプラスのフィードバックをする
- 5 多数決や、ジャンケン、平均値で決めない

本時で使用した  
プレゼンテーション画面

## (7) 検証授業の成果

### ア 検証の視点

- ワールド・カフェによる話し合い活動を通して、様々なテーマについて、自分の意見を自由に表現でき、主体的に課題に取り組む態度が育まれることを検証する。
- ワールド・カフェによる話し合い活動を通して、他者を理解し、よりよい集団づくりへの意識が高まることを検証する。

今回の検証授業を行うに当たり、授業前、授業後にアンケート調査を行った。その集計結果から、本学級では次の特徴が見られた。

授業前後の意識の変化 (%)

	4	3	2	1
1 私は話し合い活動に積極的に関わった。	14	42	35	8
	53	26	21	0
2 私は他者の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んだ。	17	51	27	4
	44	44	12	0
3 私は他者と協力して課題解決に取り組んだ。	18	53	25	5
	50	41	9	0
4 私は話し合い活動の中で新たな課題を見付けようとした。	12	43	39	7
	26	32	30	9

4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 ややあてはまらない 1 あてはまらない

※ 表の上段は、授業前アンケート結果より

表の下段  は、授業後アンケート結果より（ワークシートより集計）

アンケート調査の結果では、肯定的な回答が3つの項目で8割を超えた。生徒が話し合いに積極的に関わり、他者の意見を生かしながら、協力して課題解決に取り組むことができたことが分かった。このことから、話し合い活動を工夫すれば、生徒は自分の意見や考えを表現できるのではないかと考えた。また、自分の意見を自由に発表できる場が設定できれば、自分への自信へとつながり、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題に関わる態度が身に付くだろうと考えた。

## イ 生徒の変容

○「私は話し合い活動の中で自分の意見や考えを表現している」は、授業のワークシートの自己評価では、100%で全員が表現することができた と答えた。

事前 60% → 事後 100% (三つのテーマのうち、二つ以上で表現することができた)

○「私は話し合い活動に積極的に関わった」は、23 ポイント増加した。

事前 56% → 事後 79%

○「私は他者の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んだ」は 20 ポイント増加した。

事前 68% → 事後 88%

○「私は他者と協力して課題解決に取り組んだ」は 20 ポイント増加した。

事前 71% → 事後 91%

○「私は話し合い活動の中で新たな課題を見付けようとした。」は 3 ポイント増加した。

事前 55% → 事後 58%

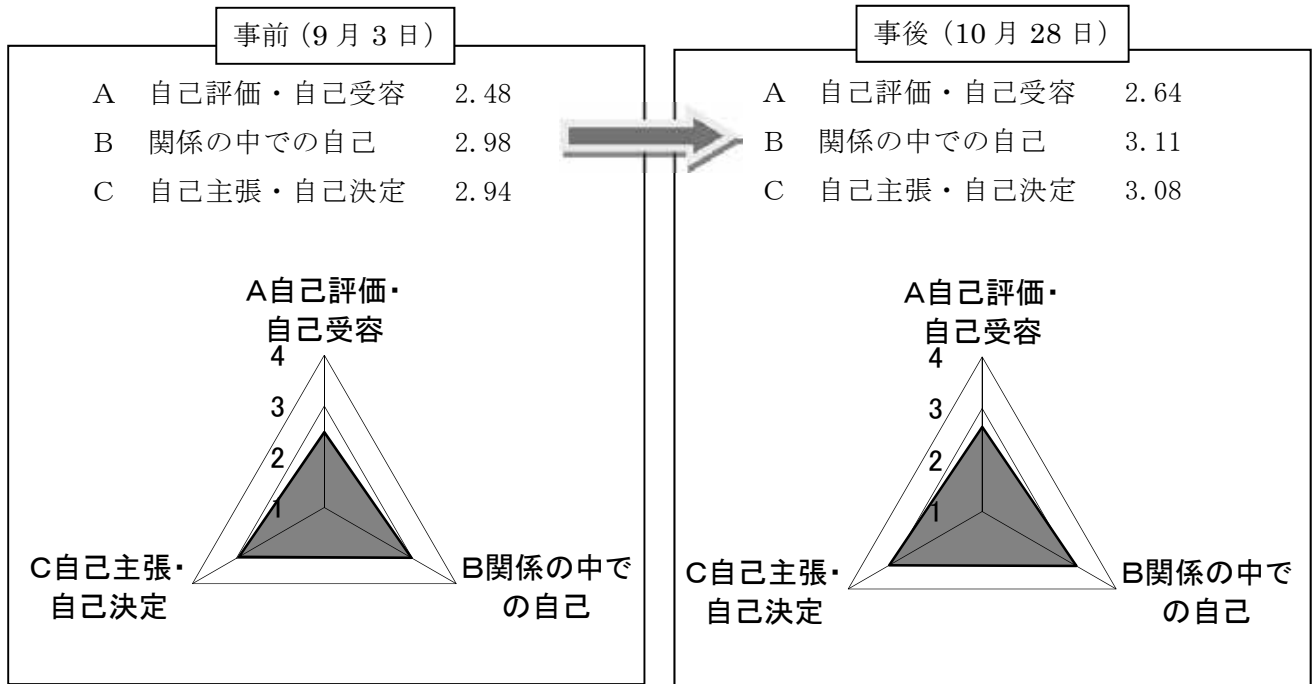
※ 数値は「4 あてはまる」 「3 ややあてはまる」の合計

### 話し合い活動を通しての感想 一部抜粋

- ・皆が出す意見の中には、新鮮な意見もあって、考えの幅が少し広がった。(オーナー)
- ・沢山の色々な意見が出て楽しかった。オーナーも楽しかった。(オーナー)
- ・自分が思いつかないような意見が聞けたのでよかった。
- ・とても楽しかったです。聞くだけでなく、見ることもあっておもしろかった。
- ・自分では思いつかないような意見がたくさん出たので、このような話し合いなら発言しやすいなと思った。
- ・自分の意見を言うのがとても気持ち良かった。みんな自分と同じ意見ならば良かった。
- ・堅苦しくなく楽しい意見が出せ、友達の意見を聞くことができて楽しかった。
- ・場所と人が変わったりして、みんなの色々な素顔が見られた感じがした。
- ・色々な意見が出て、楽しかった。もっと色々な人と話してみたい。
- ・少人数で自分の意見を出しやすかった。
- ・いつもの話し合いより、自分の意見が言えた。
- ・オーナーとして皆をまとめることができ、自分の意見も言えて楽しかった。(オーナー)

本時の成果としては、ワールド・カフェによる話し合い活動を通して、生徒一人一人が、役割と責任を自覚して取り組む姿勢が高まり、自分の意見や考えを表現するのに効果的であった。さらに、他者の意見を尊重するような意見が多く出たことで、クラスとしての連帯感が高まったと考えられる。また、事前のアンケートでオーナーを選出し、意識を高める指導ができたことで、スムーズな話し合い活動になった。

事後指導として、本時の授業で集団決定されたことがらを、もう一度朝・帰りの学活でテーマごとに振り返り話し合い活動をし、一つにまとめた。まとめたものを教室掲示することで、更なる連帯感・結束力を深める機会になった。



また、自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター 平成 22 年）においては、2か月で大きな変容があった。これは、話し合い活動を工夫したことと、話し合い活動のエチケットをしっかりと守れたことである。このことで、自分の意見を積極的に発言でき自己主張・自己受容が高められた。さらに、自己を表現でき、他者に受け入れてもらえたことで、関係の中での自己が高めることができた。

本時の授業の反省と課題としては、

- ① このような話し合い活動に生徒が慣れていなく、授業の始めに戸惑いが生じ、教師の助言が必要だった。
- ② 1時間の授業の中で、話し合い活動を通してのまとめ、集団決定をすることが難しかった。これらの課題を解決していくためには、以下のような指導の工夫が必要だと考えた。
  - ア 回数を増やしていくことで、さらに自由に自己を表現でき、模造紙に書いたり、他者の意見を聴いたりしながら、話し合い活動が行えるのではないか。
  - イ 事前指導で「集団決定をすること」についての指導が足りなかったことで、実現不可能なことについての話が及び、時間をとってしまった。趣旨説明と、事前指導を丁寧に行うことで改善できると考える。

4 検証授業（2） [実施日：平成26年10月21日]

(1) 議題 「学校生活を充実させよう～合唱コンクールへの参加～」(第2学年)  
(内容項目：(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

(2) 指導のねらい

- 学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握し解決しようとする態度を育成する。
- 互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育む。

(3) 評価の視点と本実践における評価規準

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち、合唱コンクールへ向けた学校生活に自主的・自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。	合唱コンクールを成功させる意義や、それに向けて学級で取り組むことの意義、諸問題の解決法について理解している。

(4) 展開の過程

ア 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿 評価方法
10月6日 (月)	学級活動	・アンケート調査。	・前期を振り返らせ、課題と後期の目標を考えさせる。	・合唱コンクールの成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。 【観察、振り返りカード】
	放課後	・アンケートを集計し、議題を選定する。	・生徒の思いを聞きながら、次時の流れを検討し、活動の見通しをもてるようにする。	
10月8日 (水)	学級活動	・「学校生活を充実」をテーマにワールド・カフェを用いて話し合う。	・互いのよさを生かしながら、課題解決・目標達成の具体策を考えさせる。	
10月15日 (水)	学級活動	・合唱コンクールの目標、目標に基づいた個人・集団の行動を決める。	・合唱コンクールに向けた取組に関心をもち、取組の合意形成を図る。	



イ 本時の指導と生徒の活動

(ア) 議題「合唱コンクール」

(イ) 本時のねらい

- 合唱コンクールに向けた今までの取組を振り返り、互いの考えを生かしながら、課題と今後の目標についての合意形成を図る。
- 学級の一員としての自覚を深め、互いに協力する態度を育てる。
- 学級や学校での所属感や責任感を高める。

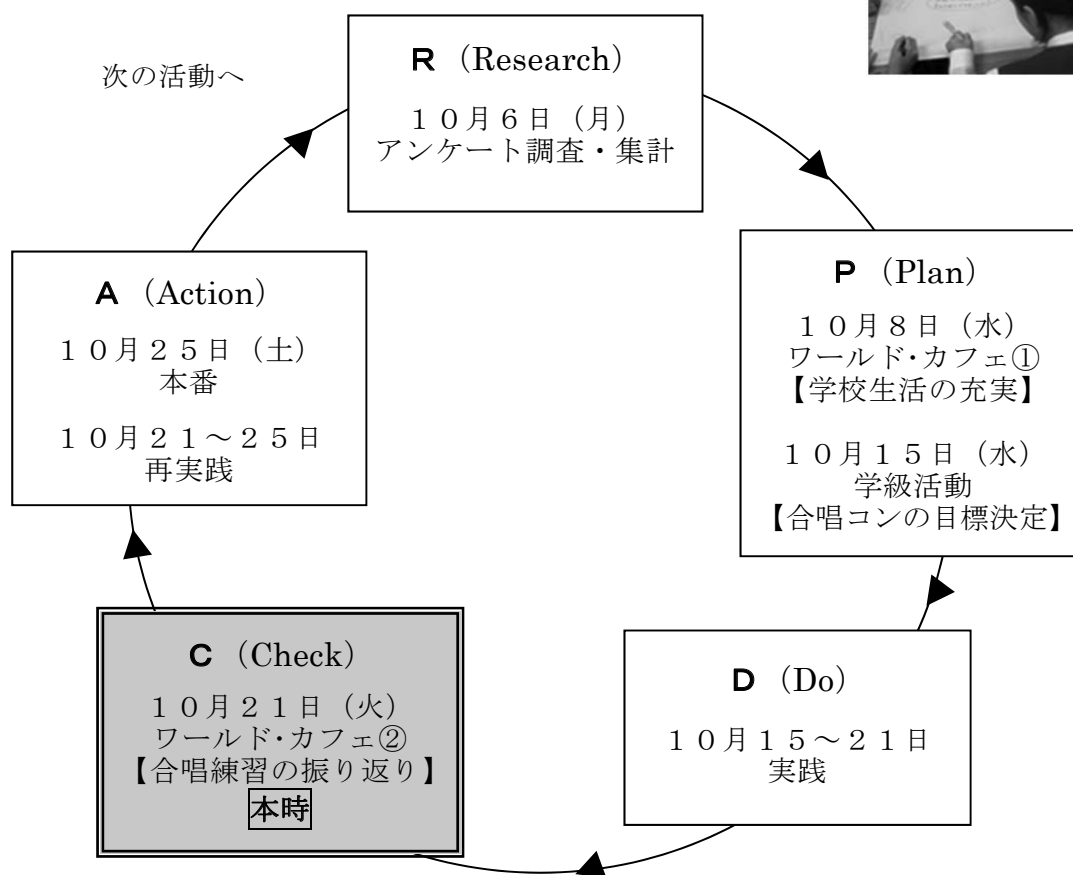
(ウ) 展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿 評価方法
活動の開始	<p>1 議題の発表 2 提案理由の説明</p>	<p>・前回のワールド・カフェで使用した模造紙や、自己決定・集団決定した取組を掲示する。</p>	<p>◎合唱コンクールの成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。</p>
	<p>議題 ①合唱コンクールに向けて決めた目標（取組）は達成できているか。何が達成できて、何が達成できていないか。 ②合唱コンクールを通して、どのようなクラスをつくっていききたいか。 ③合唱コンクール本番に向けて、また、その後の生活に向けて、自分にはできることは何か。</p>		
活動の展開	<p>3 話し合い (1) 合唱コンクール成功に向けて、クラスで決めた取組を振り返ろう。 (2) 各テーマ7分間話し合いをし、次のカフェに移動する。 (3) 元の位置に戻り、シェアリングを行い、内容を深め、発表する。 (4) これからクラスとして行っていくことを集団決定をする。</p>	<p>・今までの練習を振り返り、様々な角度から考えるように助言する。 ・話し合い活動の進め方を説明する。(ワールド・カフェ) ・ワークシートを配付する。 ・活動時間を伝える。 ・移動後、模造紙を見るよう指示する。 ・話し合いの流れを方向付けた発言や班長(オーナー)の活動などを称賛するとともに、実践へ向けて活動意欲を高めることができるよう助言する。</p>	<p>◎互いのよさを生かし合いながら、具体的な改善策を考え、理由を示して意見を述べている。 【観察】 【ワークシート】  ◎新たな課題を発見しようとしている。 【観察】 【ワークシート】</p>
活動のまとめ	<p>4 決定事項の確認 5 自己評価・感想記入</p>	<p>・担任の助言を、学級活動カードに記入する。新たな課題を発見した場合には、ワークシートにメモをとる。</p>	

ウ 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月29日 (水)	学級活動 (合唱コンクール後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱コンクールを終えて、振り返り活動を行う。</li> <li>生徒の活躍について、具体例を示して称賛する。</li> <li>課題が解決されたか学級全体で確認する。未解決のものは修正し、解決に向けて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の思いを聞きながら、本時の流れを検討し、活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱コンクールの成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。</li> </ul> <b>【振り返りカード】</b>

エ 事前・本時・事後の活動の図式化 (R P D C Aサイクル)



(5) 資料等

○10月8日(水) ワールド・カフェ①【学校生活の充実：三つのテーマについて話し合い】

① <ようこそ！ワールド・カフェへ>

◆◆ カフェ	カフェ □□	☆☆ cafe
△△ カフェ	カフェ ★★	○○ cafe

② <ようこそ！ワールド・カフェへ>

よいクラスをつくりたい！ そのためにがんばろうよ！	テストの結果をよくしたい！ そのためにがんばろうよ！	合唱コンを成功させたい！ そのためにがんばろうよ！
------------------------------	-------------------------------	------------------------------

③ <ようこそ！ワールド・カフェへ>

**話し合いのルール(カフェチケット)**

1. 自分の考えを(全員が)積極的に話そう
2. 話は短く、簡潔に
3. 話だけではなく、積極的に書こう
4. 相手の話に耳を傾けよう
5. 批判より同意、合言葉は「それいいね」
6. テーマに合った話し合いをしよう

④ <ようこそ！ワールド・カフェへ>

**ワールド・カフェの流れ**

第1ラウンド 4~6人で席に座って、テーマについて話そう

↓ 席替え ↓

第2ラウンド 各テーブルにオーナー1人だけ残して、他のメンバーは「旅人」として移動する

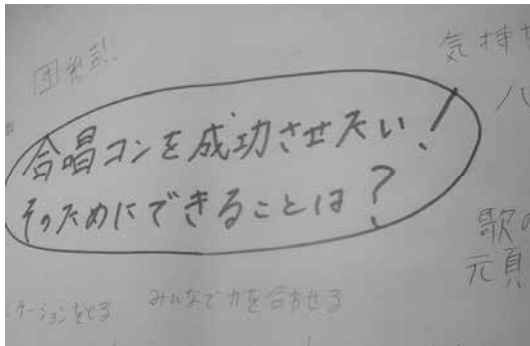
↓ 席替え ↓

第3ラウンド 各テーブルにオーナー1人だけ残して、他のメンバーは「旅人」として移動する

↓ 席替え ↓

最初のテーブルに戻り報告・まとめ → 全体での振り返り

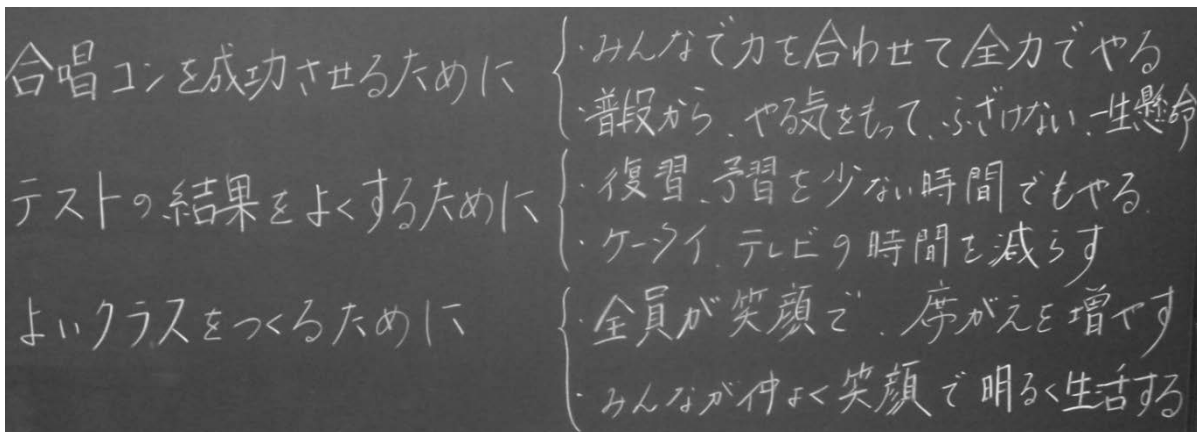
パワーポイントを使い、話し合い活動のやり方(ワールド・カフェ)について説明した。



模造紙に、自分の考えを自由に書き込む。

テーマ「学校生活を充実させるために」		第1回
話し合い活動のためのワークシート		10月8日
組 番 名前		
進み方	□ → □ → □	
話し合いのテーマ		メモ
A	合唱コンを成功させよう	
B	テストの結果をよくしよう	
C	よいクラスをつくらう	

ワークシート(一部)



学校生活の充実をテーマに話し合った結果(板書)。話し合いの後、班ごとに発表し、クラス全員でこれからどう学校生活を送っていくかを確認した(集団決定)。

< 合唱コンクール係分担 ～合唱コン<sup>秘</sup>大作戦～ >

☆目標・スローガン みんなで団結して優勝する！～目指すは優勝、残すは思い出～

- ☆具体的な取組
- ①朝練をする
  - ②1日1回カセットを必ず聴く
  - ③歌詞だけではなく楽譜（音符など）も覚えて音程を合わせる

係	仕事の内容	担当する人
文化祭実行委員 (男女1人ずつ2名)	・文化祭全体に関わる仕事。舞台、装飾、展示、プログラム作りなどを行う。 ・練習計画、キーボード、テープ準備、審査、クラス代表挨拶	( ) ( )
伴奏者 (2人)	ピアノ伴奏を担当する係	( ) ( )
指揮者 (2人)	合唱の指揮をするだけでなく、全体のリーダー的存在となる係	( ) ( )
パートリーダー	それぞれのパートを取りまとめるリーダー。常に自分のパートの様子に注意を払い、パートの団結力を高める係。	ソプラノ ( ) アルト ( ) ( ) 男声 ( )
注意・盛り上げ係	練習中ふざけている人を注意したり、雰囲気盛り上げる発言を積極的にしたりする係。	( ) ( )

ワークシートの一部（集団決定：生徒が司会を務め、合唱コンの目標と具体的な取組を決定）

合唱コンクールに向けて

◆合唱コンクールの目標・スローガン(合唱コンクールで何を目標するか、合唱コンクールを通してどんなクラス・個人を目標するか)

◆みんなで団結して優勝!

◆目指すは優勝、残すは思い出

◆朝練をする・歌詞だけでなく音符も覚えて音程を合わせる。

◆1日1回カセットを必ず聴く

合唱コンクールに向けて

◆合唱コンクールの目標・スローガン(合唱コンクールで何を目標するか、合唱コンクールを通してどんなクラス・個人を目標するか)

◆みんなで団結して優勝する!

◆目指すは優勝、残すは思い出

◆クラスを文化祭実行委員としてまとめる。

合唱コンクールに向けて

◆合唱コンクールの目標・スローガン(合唱コンクールで何を目標するか、合唱コンクールを通してどんなクラス・個人を目標するか)

◆合唱コンクールを通過して、クラスを一つにする

◆練習を楽しく参加する

合唱コンクールに向けて

◆合唱コンクールの目標・スローガン(合唱コンクールで何を目標するか、合唱コンクールを通してどんなクラス・個人を目標するか)

◆文化祭の前よりも良いクラスになれるように

◆一生懸命練習する。

集団決定を踏まえた自己決定（目標と具体的な取組）を行った。

○ 本時の指導について（10月21日）

**①**

**<第1ラウンド>**  
合唱コンクールに向けて決めた目標(取り組み)は達成できているか？

**合唱コンクールの目標・スローガン**  
みんなで団結して優勝する  
～目指すは優勝、残すは思い出～

**具体的な取り組み**

①朝練をする  
②1日1回カセットを必ず聴く  
③歌詞だけでなく、楽譜も覚えて音程を合わせる

**②**

**<第2ラウンド>**  
合唱コンクールに向けて決めた目標(取り組み)は達成できているか？

**③**

**<第3ラウンド>**  
合唱コンクールを通して、どんなクラスをつくりたいか？

**④**

**<まとめ>**  
合唱コンクール本番、その後の生活に向けて自分(自分たち)にできることは何か？

合唱コンクール本番に向けて、また、その後の生活に向けて、自分(自分たち)にできることは何か、どんなクラスをつくりたいか。

私たちが

班の行動宣言

(c)ます

(注)必ず一文・単文で書く。×○○○○○○○ ○○○○○○○○

パワーポイントを使い、合唱コンクールやその後の生活について話し合う手順を説明。最後に班ごとに「行動宣言」を書き、一番大切にしたい「行動宣言」を発表した（集団決

○ 事後の指導について（10月29日）

**合唱コンクールの振り返り**

< 本番の映像を見よう！ “優勝よりも大切なこと” を今後の生活に生かそう！ >

1. みんなで決めた目標・取り組み・行動宣言

☆目標・スローガン みんなで団結して優勝する！～目指すは優勝、残すは思い出～

☆具体的な取り組み ①朝練をする  
②1日1回カセットを必ず聴く  
③歌詞だけでなく楽譜（音符など）も覚えて音程を合わせる

☆合唱コン・その後の生活に向けての行動宣言

①仲良く平等なクラスをつくります ④悔いが残らないように全力を注ぎます  
②悔いが残らないように全力を尽くします ⑤聴いている人を感動させます  
③明るいクラスになるために感情を込めて歌います ⑥一回一回の練習に集中します

2. 目標・取り組み・行動宣言は達成できましたか、また、そのために頑張ったことを書きましょう。

はい	いいえ
4・3・2・1	

3. これまでの取り組みを通して、よりよい目標をつくり上げるためにはどんなことが必要かと思いましたが、考えられることを書いてみましょう。

4. 合唱コンクールへの取り組みで、頑張っていた人はいましたか、名前、その人の頑張りを（メッセージ）を書きましょう。（書かなくても大丈夫です、書く人は書いてもらえましょう）

5. メッセージを受けた感想を書きましょう。また、合唱コンクールを通して学んだことを、これからの学校生活にどう生かしているか（頑張りたいこと、あがりたいこと、来年に向けて）も書きましょう。

よい声をありがとう！  
クラスでの練習や音楽の授業やを明るくしてくれました。本当に感謝しています。明るく練習できたから、よい合唱ができたのだと思います。これからもクラスのムードメーカーとしてよろしく！

今回優勝できたのは、○○さんのおかげだよ。しっかりと歌ってくれてありがとう。

クラスを明るくしてくれてありがとう！おかげで楽しく練習することができたよ。とても美声だったね。優勝うれしいね。ありがとう。

合唱コンクール終了後、ワークシートを使って今までの取組を振り返る（自己評価・他者評価）。他者評価ではメッセージカードにメッセージを書き級友に渡す。自尊感情の向上につながった。

(6) 検証授業の成果

ア 検証の視点

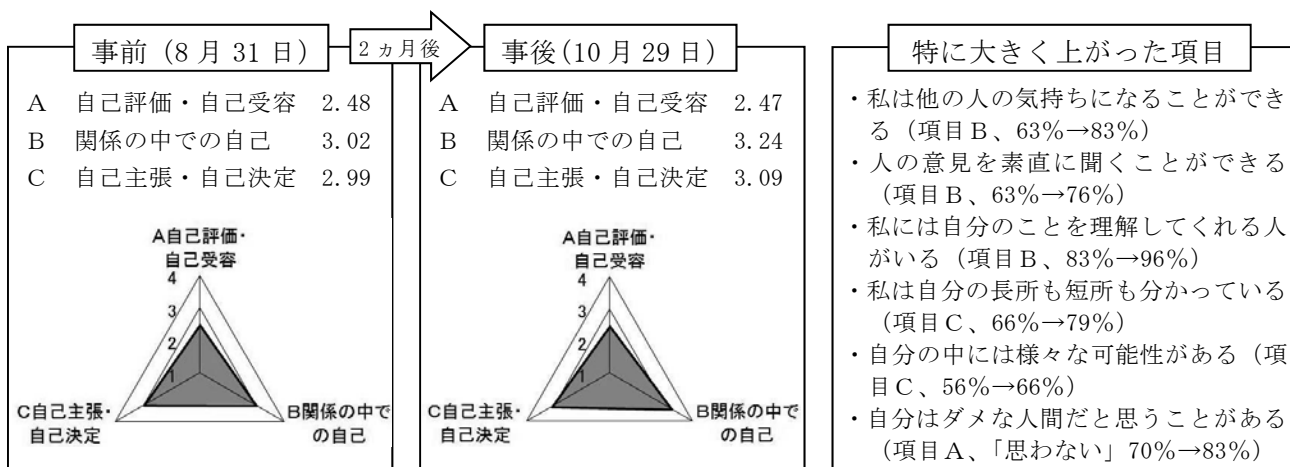
- ワールド・カフェによる話し合い活動を通して、様々なテーマについて、自分の意見を自由に表現でき、主体的に課題に取り組む態度が育まれることを検証する。
- ワールド・カフェによる話し合い活動を通して、他者を理解し、よりよい集団づくりへの意識が高まることを検証する。

イ 生徒の変容

学級活動に関するアンケート結果

- 話し合い活動に積極的に関わる生徒が増加した。  
( 事前 53% → ワールド・カフェ直後 97% → 事後 87% )
  - 友達の意見を生かしながら話し合い活動に取り組む生徒が増加した。  
( 事前 70% → ワールド・カフェ直後 100% → 事後 93% )
  - 友達と協力して課題解決に取り組む生徒が増加した。  
( 事前 83% → ワールド・カフェ直後 100% → 事後 96% )
  - 話し合い活動の中で新たな課題を見つけようとする生徒が増加した。  
( 事前 60% → ワールド・カフェ直後 90% → 事後 93% )
- ※数値は、「4当てはまる」「3どちらかという当てはまる」の割合の合計値

「生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話し合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題に関わる態度が身に付くだろう」という研究仮説のもと、①R P D C Aサイクルに基づいた学級活動、②話し合い活動の工夫、③生徒による評価方法の工夫を意識し、検証授業を行った。ワールド・カフェという話し合い活動の工夫をすることによって、上記のように、話し合い活動や課題の発見・解決に主体的に取り組む生徒が増えた。また、自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター 平成 22 年）においては、下記のような変容が見られた。



①話し合い活動の工夫（ワールド・カフェ）、②R P D C Aサイクルに基づいた学級活動（役割・課題意識の明確化）、③評価方法の工夫（自他の尊重）をすることによって、特に「関係の中での自己」の項目が上がった。つまり、「多様な人との関わりを通して、自分が周りの人の存在の大きさに気付く生徒が増えた」ということができる。また、「自己主張・自己決定」の項目も上がった。「今の自分を受け止め、自分の可能性に気付く生徒が増えた」ということができる。

「自己評価・自己受容」の項目については、上昇が見られず課題が残ったが、①～③の視点に基づいた学級活動を行うことによって、研究主題にある「一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度」を向上させることができたと考えられる。

#### ウ 話し合い活動を通しての感想（一部抜粋）

- ・色々な意見を出しあって楽しかった。これからの私自身の課題もたくさん見付かった。
- ・皆が一生懸命どうすればよいか考えていた。このクラスはもっと良くなると思った。
- ・班に戻った時、最初より書き込みがたくさんになっていて、すごいと思った。課題を達成に変えたい。
- ・今回、話し合いを基に決まった行動宣言をクラス全員で達成できるようにしていきたい。
- ・優勝するために皆で話し合って、人一倍努力すれば、その目標は達成できるのだなと思いました。
- ・合唱コンクールの結果発表、涙が出た。でもそれは優勝できたからではなくて、当日まで頑張ったことや、色々な思いがあったからだと思った。
- ・メッセージをもらって、もっと頑張ろうと思った。
- ・これからの学校生活の一日一日を大切に、また、細かいことも大切にしたいです。

#### エ 検証授業の反省と課題

- ①ワールド・カフェ（席の移動、模造紙への記入、オーナーとしての役割など）に対する慣れ、教師の適切な指導・助言が必要である。
- ②多くの意見が出るため、1時間の授業（50分間）では時間が足りない。話し合い活動のまとめ方に工夫が必要である。
- ③効果的な話し合い活動を行うためには、どのようなテーマで話し合うか、適切なテーマを設定する必要がある。
- ④カフェのような自由な雰囲気が活発な意見交換を促進するが、授業規律の土台がないと効果的な話し合い活動にならない。
- ⑤オーナーの話の仕方、聞き方、まとめ方によって、話合った内容の深さ、課題解決に向けた対策の具体性、一人一人の充足感などに差が出てしまう。

## VI 効果の検証と提言

### 1 効果の検証の概要

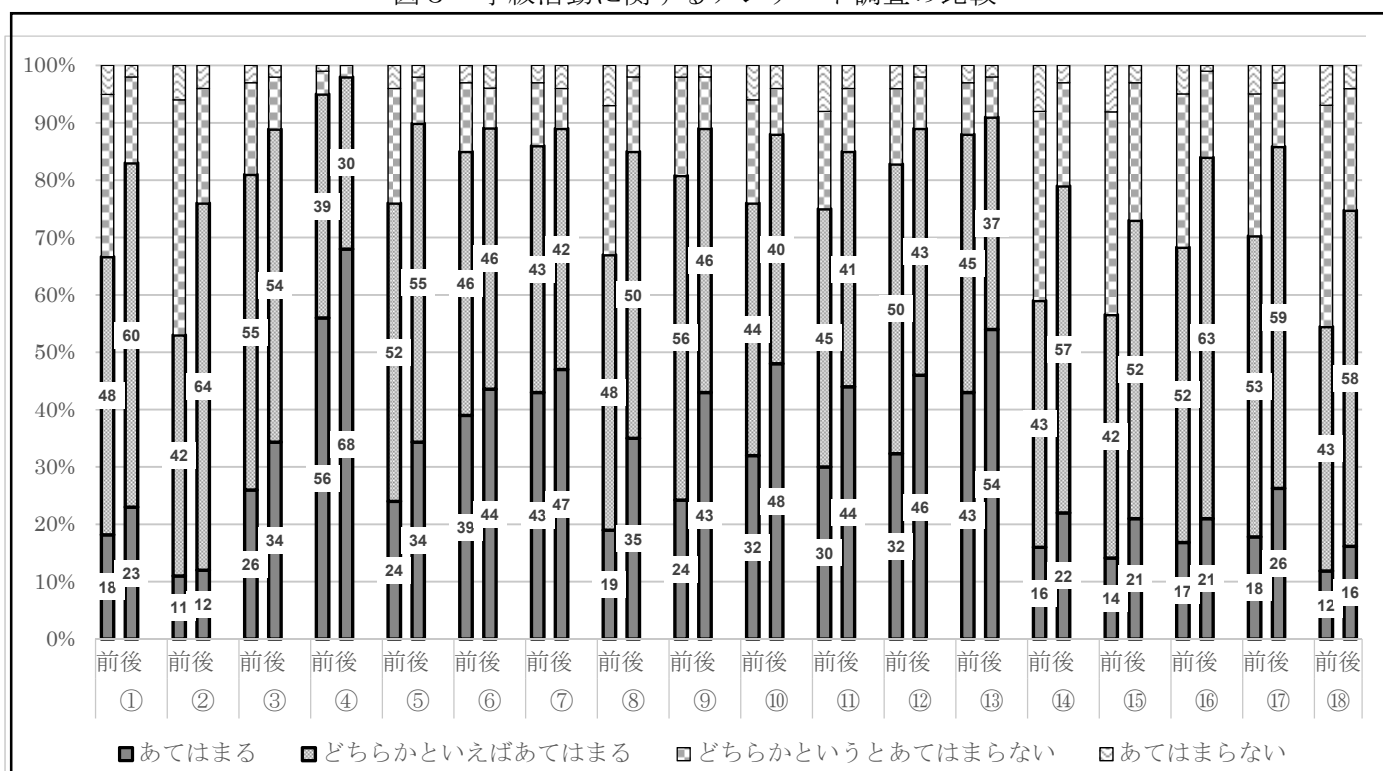
研究仮説に対する実践的研究の結果を考察するために、効果検証を行った。

学級活動に関するアンケート調査は、検証授業を行った4校（中学校第2学年の2学級・第3学年の2学級）の4学級123名で実施した。

### 2 効果検証の分析と考察

検証授業の効果を検証するために、事前と事後で学級活動に関するアンケート調査をし、比較をした。それぞれの項目で事前と事後の変化を棒グラフで表した(図3)。上から順に「1 あてはまらない」、「2 どちらかというにあてはまらない」、「3 どちらかというにあてはまる」、「4 あてはまる」となっている。

図3 学級活動に関するアンケート調査の比較



まず、特徴的な事項を挙げる。項目①「私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる」と項目②「私は友達や学級のためになることは、自分で見付け実行している」では「4 あてはまる」又は「3 どちらかというにあてはまる」で回答した割合（以下、「肯定的な割合」という）が20ポイント近く増加した。また、項目⑧「学級は安心して自分の意見や考えを公表できる場所である」で肯定的な割合が10ポイント増加した。話し合い活動に関わる項目⑭・⑮・⑰・⑱では肯定的な割合の増加が顕著に見られる。いずれの項目においても肯定的な割合が15～20ポイント増加している。

以上のことから次の二点が読み取れる。第一として、検証授業のように、話し合い活動での



自分の役割をはっきりさせたり、自分の意見を言ったりするだけでなく、書くことを通して、項目⑭のような「自分の意見や考えを表現」する意識が高まると考える。そして項目⑮のような「話し合い活動に積極的に関わる」意識も上昇する。自他を認めながら協力して話し合い、集団決定することを通して、項目⑰や⑱のような「課題解決に取り組む」姿勢や「新たな課題を見付ける」姿勢を養うことができると考える。

第二として、自らが積極的に関わる話し合い活動を通して、学級への問題意識を高め、項目①や②のような「学級や班への取組」や学級のためになることを自分で見付け実行する姿勢を養うことができると考える。

このように、自分の意見の表現方法を工夫した話し合い活動を通して、生徒が自他をよりよく理解することができるようになったと考えられる。また、自他を認め合う雰囲気での話し合い活動を通して、生徒一人一人が学級の課題を意識し、解決するために取り組むことができるようになったと考えられる。今回の取組を通して、学級に対して所属感や連帯感をもち、課題に主体的に関わろうとする姿勢や学級の向上のために進んで解決していこうとする態度を育成することができたと言えるだろう。

### 3 研究の提言

検証授業の成果及び検証授業後の調査の結果を受けて、研究のねらいに迫る手だてとして有効であった指導の工夫について以下のようにまとめ、本研究の提言とする。

- (1) 学級活動における指導の工夫
  - ア アンケート調査等で生徒一人一人に課題を認識させた上で話し合い活動を行う。
  - イ 連帯感を高めさせるために、他者の意見を尊重しやすい話し合い活動を行う。
- (2) 学級活動の具体的な内容と指導方法
  - ア 話し合い活動で意見を言うだけでなく書かせることを通して、全員が意見を出し合い、話し合い活動を進めやすくするよう配慮する。
  - イ 話し合い活動のメンバーを入れ替え、前に出された意見を理解してから話し合いを進めることで、議論が発展しやすいようにする。
  - ウ 更なる連帯感や結束力を深め、一人一人の日常生活の行動改善につなげるために、授業後の振り返りを行ったり、書かれた模造紙を掲示したりすることによって、集団決定で決まったこと、自己決定したことに対する意識を継続させる工夫をする。

## Ⅶ 研究の成果と今後の課題

本研究は「学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫～自他を尊重する話し合い活動を通して～」を研究主題と設定し、「生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話し合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題に関わる態度が身に付くだろう。」という研究仮説に基づき、ワールド・カフェを用いた話し合い活動を中心としたものである。本研究の成果と今後の課題は以下の通りである。

### 1 研究の成果

RPDCA サイクルに基づいた学級活動を行うことにより、目的意識、課題意識を明確にし、継続して解決に実践しようとする意欲が高まった。ワールド・カフェを用いる話し合い活動では意見の共有、意思の疎通がしやすく、話し合いが活発に行われた。他者の意見を理解し、自分の考えを深め、お互いの意見を尊重し合いながら集団決定をしたことで、主体的に課題解決に取り組もうとする意識が向上し、新たな活動へとつながりをもたせることができた。

- (1) 望ましい人間関係の向上（自他の尊重）。
- (2) 主体的に課題解決に取り組もうとする意識の向上。
- (3) 生徒の積極的な話し合い活動への参加（表現力の向上）。
- (4) RPDCA サイクルに基づいた「実践」「振り返り」による日常生活の行動改善。

### 2 今後の課題

研究の仮説に迫るための具体的な手だてとして3つの視点に沿って検証を行ってきたが、それぞれの視点における手だてについての考察をさらに深める必要がある。

- (1) 計画的、組織的なRPDCA サイクルに基づいた学級活動の継続。
- (2) 生徒の自発的、自治的活動の効果的な展開への教師の適切な助言。

学級活動にワールド・カフェを取り入れた話し合い活動を継続的に取り入れていくことで互いの考えを深め、課題を解決していく授業実践を指導事例集などにまとめるなど、年間指導計画の改善・充実を図ることが必要である。また学級活動での話し合い活動は1単位時間の活動時間内にとどまらず、学校生活のあらゆる場面で行う必要がある。日々継続して生徒の意見や気づきをRPDCA サイクルで実践していく手だてと工夫が必要である。特別活動においては、「体験あって学びなし」ではなく、教員の適切な指導が行われる集団の中で「なすことによって学ぶ」という実践活動を規律ある日常生活の中で継続していくことが大切である。

## 平成26年度 教育研究員名簿

### 中 学 校 ・ 特 別 活 動

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
江東区	深川第五中学校	主任教諭	大 塚 隆 弘
杉並区	天沼中学校	教 諭	藤 原 哲 也
練馬区	大泉北中学校	教 諭	光 益 潤
葛飾区	新小岩中学校	主幹教諭	◎瀬 戸 完 一

◎世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
指導主事 神谷 なおみ

平成26年度  
教育研究員研究報告書

中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕

平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社